

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援センター ふれあいキッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 27日		～ 令和7年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		～ 令和7年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	送迎時や随時電話等で子どもたちの様子やその日気になった事等を、保護者と情報共有していること。	連絡帳に記載できない部分の補完を行うよう意識している。次回利用時に戸惑いが少ないよう、利用児の特性もふまえた上で情報共有するようにしている。	ホームページ等があれば、行事の様子や予定などをスムーズにお知らせできる。
2	利用児数に合わせて柔軟に制作活動や音楽の時間等の活動を行っている。	曜日や時間を固定することでこだわり行動に結びつくことも考え、利用児同数の報に合わせて活動を設定している。写真等でその日行うことの予告を行い、戸惑いの少ないようお示ししている。	予告を示されることが苦手なお子さんもいる為、個別の特性に合わせた提示の仕方の工夫が必要。
3	特性に合わせて部屋を分け、クラス分けを行っている。状況や成長に合わせて柔軟に行き来できる環境を設定している。	学校の動きに沿った形の形式をとることで混乱が少なくスムーズに動くことができる。意識的に学校の座り方等を取り入れている。	成長を見守り、必要があれば別のクラスでの活動を容認する等、より柔軟な形式になるよう工夫したい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	完全なバリアフリーの構造になっていない。	既存の建物を使用しているため	現状として車いすを使用している利用児童の受け入れがないが、今後受け入れする場合はスロープを設置する等の対応を行う予定。
2	送迎時の人員配置が難しく、支援級に通学しているお子さんの受け入れが難しい。	適切に添乗員を配置することが出来ない、又は事業所内で支援にあたる指導員が不足する状況にある為。	現状の送迎の状態に好印象を持っていただいている部分もあるため、送迎にあたっての姿勢は変える事が出来ない。できる範囲で送迎が可能かどうかを検討して受け入れを行う予定。
3	マスクを着用できるお子さんが少なく、感染症が広がりやすい。	マスクの感触や感覚が苦手とする特性がある為無理強いできない。	手洗いや消毒を適宜行う。